



## 舟下り復活と桜の植樹で 秋篠川を新たな観光スポットに

平城京の時代、秋篠川は、現在の近鉄九条駅付近にあった「西市」へ物資を運ぶ舟が運行され「西の堀川」と呼ばれていた（奈良市内の東を流れる佐保川は「東の堀川」と呼ばれていた）。また、秋篠川は、1300年前の平城京造営にも資材の運搬に利用された。

今年は平城宮跡が平城遷都1300年祭のメイン会場となったことから、奈良県、奈良市などで行く「秋篠川プロジェクト」による主催で、河川愛護意識の醸成、水質改善の啓発を図るとともに、新たな観光ルートの可能性を検討するため、秋篠川舟下りイベント（舟運復活社会実験）が検討・実施された。

舟下りは、平城京乗船場（近鉄大和西大寺駅東側）から西の京降船場（唐招提寺東側）までの1.7kmで、全長約6m、幅約1.5mの棹舟<sup>さおふね</sup>2隻を運行。定員は10人、補助動力として小型エンジンを使う。

運行日は、9月11日（12便）と、10月16、17日（各6便）で、9月11日は正午より平城京乗船場から大宮通りまでの約700mを運行。

10月16、17日は午後2時より平城京乗船場から西の京降船場まで約1.7kmを下るが、途中の大宮通り付近に堰があるため、いったん舟を乗り換える。夕方からの乗船者は提灯を持って川面を照らしながら進み、下船してから夜の薬師寺を訪れるプランも検討されている。



万葉衣装で着飾り、舟下りを楽しむ乗船者  
（写真提供：奈良県土木部河川課）

地元の「都跡地区自治連合会」の藤田会長は、県から舟下りイベント協力の要請を受け、県に水質の良い川にしてほしいと要望して了承した。

地元では、佐保川の桜並木と同じように秋篠川にも桜を植え、観光客に楽しんでもらおうとの動きがあり、都跡地区自治連合会の有志をメンバーとして「秋篠川に桜を育む協議会」が、平成21年1月に設立された。同会のメンバーが募金し、山桜の苗木を育て、平成22年3月末に都跡小学校の西側の秋篠川沿いに山桜を40本植樹。10月上旬に唐招提寺横の秋篠川土手に花壇を作り、菊などを植えた。また、12月には、県から寄贈された桜の苗木約100本を近鉄大和西大寺駅付近から尼ヶ辻までの川沿いに植樹する予定。

「秋篠川に桜を育む協議会」の酒井会長は「秋篠川沿いに桜を植樹、育成することにより、観光客並びに地元住民にとって『潤いの場・安らぎの場・集いの場』を提供するとともに、住民同士のつながりを深めることがこの会の目的。桜が将来育った頃、舟下りのお客さんにも桜を楽しんでもらえたら」と話していた。

舟下りが実現し、桜並木に花が咲くようになれば、秋篠川沿いは、新たな奈良の観光スポットとして賑わいをみせると思われる。

（上田 祥博）



今春の秋篠川沿いの桜  
（写真提供：「秋篠川に桜を育む協議会」）